

平成28年度ヒロ・デザイン専門学校 自己評価
(評価対象期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日)

1. ヒロ・デザイン専門学校の学校評価の進め方について

(1) 学校評価におけるアンケートについて

①アンケートの対象

学校評価にあたっては、職員だけでなく、学生、保護者、企業関係講師、インターンシップで連携いただいている企業等、外部アンケートを実施し、客観性を高め、その結果を踏まえ自己評価を実施する。

②アンケートの問いかけについて

わかりやすい言葉で質問する。また、答えにくい質問に対しては、無理に回答を求めず、回答の精度を高める。

③学校の取り組みを付記

質問事項に関して学校の取り組みの状況を付記し、回答しやすくするとともに、学校理解につなげる。

(2) アンケートの集計結果から評価の方法

職員、学生、保護者、企業関係講師、企業の回答集計データを基に評価の高いほうから、A・B・C・Dの4段階で評価を行う。

※各項目についての詳細については、以下を参照。

2. 評価項目についての評価

(1) 教育理念・目標

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・学校の教育理念・目的・育成人材像について学生や保護者に伝えるよう努めているが、十分に伝わっているか。	A
・各科が目指す職業人を育成するため、科の特色に沿った実践教育が十分に行われているか。	A
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	A
・各学科で育成しようとしている人材像は、今後の各業界の方向性に沿ったものになっているか。	A

①自己評価

教育理念・目標の項目については、全体的に、評価が高い。特に、「各科が目指す職業人を育成するため、科の特色に沿った実践教育」については、講師・企業、保護者についても評価が高い。そのことから、本校の根幹である職業教育は、適正に使命をはたすことができているといえる。また、「学校の教育理念・目標・育成人材像について学生や保護者に伝わっているか」が、昨年はB評価だったが、本年度はA評価となった。学生、保護者の評価が昨年より数値が上がっており、これまで、学校の教育方針等について、年度当初や集会等の中で周知に努めた成果が上がったものと思われる。今後も機会をとらえて周知する取り組みを継続するとともに、保護者あてのヒロ・デザ通信を計画的に定期的な発行を継続していきたい。

(2) 学校運営

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	A
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	A
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	A
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	A
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	A
・ホームページ等で、各種の教育活動を公開し紹介しているが十分か	A
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	A

①自己評価

学校運営面では、全項目についてA評価と高い評価となっている。職員の業務分担が明確になり、意思決定についてのシステムが構築でき、組織的な動きができています。また、ホームページについては、「what's new」のコーナーの更新頻度が上がり、校内での行事や取り組みについて、ほとんどその日のうちにUPができています。Instagramにも取り組み、高校生のSNSの活用状況に対応するよう努力しています。これからもホームページの充実を図るとともに、社会の変化に敏感に対応していく必要がある。また、業務の効率化については、職員間の共有フォルダを使い、効率化を図ってきたことで一定の成果をあげることができているが、一層の効率化をはかるために、共有フォルダ内の整理を定期的に行っていくことが必要である。

(3) 教育活動

評価項目	A・B・C・Dの4段階で評価
・教育理念や学校が目指す人材育成に沿った学科編成や教育課程の編成がおこなわれているか	A
・教育理念を踏まえ、学校が目指す「現場で即戦力となる」力を育成するための学習時間は確保されているか	A
・業界の必要とする知識・技能を、限られた時間で、効果的に修得できるよう、各科目の関連と段階を考えた教育課程が編成されているか	A
・出口としての就職を目的とするだけでなく、人生設計やキャリアアップ等を踏まえた教育内容や教育方法の工夫ができていますか	A
・関連分野における実践的な職業教育(企業等との連携によるインターンシップ、実技・実習等)は、知識や技能の学習とバランスを図りながら、取り入れられているか	A

①自己評価

教育活動の項目については、全項目がA評価と評価が高い。平成27年2月に、ファッション流通ビジネス科、ブライダル科が、そして平成28年2月にプロフェッショナルデザイン科が、文部科学省から、「職業実践専門課程」の認定を受けた。本校では、日ごろから企業と連携し、企業の講師による実践的教育はもとより、各科のインターンシップや、セレクトショップ、HIRO'S(学生企画作品の販売)等多くの現場での実習を行っている。そうした実践が、学生や保護者には、企業と連携した教育として実感できていると思われる。また、継続的にインターンシップ等で企業に協力いただいていることで、企業側の理解も進み評価されていると思われる。

昨年度と比較し学習時間の確保について学生の評価が高くなっている。昨年度この項目について評価が低かったことから、これまでも行っていたことだが、各教科での課題等について担当が中心となり課題の全体量の把握調整を図ったことで、学生の負担感が減少し、この評価につながったと思われる。

(4) 学修成果

評価項目	A・B・C・Dの4段階で評価
・業界就職率ほぼ100%を達成することができているが、就職指導についての取り組みは十分か	A
・学科毎に資格検定に取り組み、高い取得率を達成しているが、その取り組みは十分か	A
・在校生や卒業生の活躍など把握した時点で紹介し、活躍を奨励したり、他学生の刺激になるようにしたりしているが十分か	A
・卒業生が来校した時等に、学校で学習したことが、役に立つものだったか、また学習しておいた方がよいものがないかについて把握し、教育活動の改善に活かすよう努めている。そうした対応は十分か	A

①自己評価

学習成果の項目については、全ての項目で評価が高い。特にこの数年の業界就職率がほぼ100%であり、各種検定については高い合格率の実績があることで、講師や企業、保護者の評価が高くなっている。しかしながら、この1~2年、高い合格率を維持しながらも、検定によっては、数人の不合格者が出ている。一層の取り組みが必要だと考えている。在校生や卒業生の活躍についての奨励等については、一昨年に続き、全国規模のファッションコンテストでの受賞式の様子をリアルタイムで、視聴したりしたこと等もあり、評価がさらに高くなった。また、卒業生が本校を訪れた時など、学生に対して話をしてもらう機会を設定するなどしていることで、卒業生の情報を教育活動に生かすことができている。

(5) 学生支援

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・業界就職率100%を達成しており、就職等の指導や支援については、担任を中心に、一般教養の担当等、その他の科目担当者等、学校全体で、取り組んでいる。こうした就職指導や支援は十分か	A
・学生相談について、担任を中心に、学校全体で、学校生活の相談や進路相談に対応しているが体制は十分か	B
・授業料について一部免除や、生活態度や成績が優秀な学生、努力する学生を奨励するため、報奨金や学費の免除等の多くの修学支援を行っているが十分か	A
・学生の健康管理のために、4月に健康診断、11月にインフルエンザの接種指導、毎日の、朝のホームルームでの健康観察、緊急時のため近隣のクリニックと連携しながら健康管理の仕組みを作っているが十分か	A
・学生全員が、一定の基準の知識・技能が習得できるよう、授業時間だけでなく、個人指導や補習及び課外を行ったり、全員が検定合格できるよう授業時間以外の指導を行ったりしているが十分か	A
・学生の学校における生活環境への支援は十分か	A
・学生の様子で気になることがある場合、保護者に連絡を取り連携を図るようにしているが十分か	A
・卒業生の相談等についての対応、支援の体制は十分か	A
・高校等との連携によるキャリア教育・職業教育に係る職業理解等への協力要請について十分に対応しているか	A

①自己評価

学生支援の項目の中で、保護者との連携について昨年度までB評価だったが、本年度A評価となった。学生からの連絡がなく、朝のホームルームに登校していない時は、本人に連絡し、それでも連絡がつかないときは、家庭に連絡することを徹底していることや、学校の様子で気になる場合は、本人と面談を行い、状況によっては、保護者に連絡をするなどを徹底していることが評価につながったと考えられる。就学支援の項目については、本年度は特に熊本地震後、家屋の全壊、半壊の家庭について、授業料の減免も実施した。健康管理の項目については、これまで行ってきた対応が、浸透し評価につながったと思われる。

学生への相談体制については、昨年度より、学生、保護者の数値は上がっているもののB評価となっている。学校としては、学生の社会人としての自立心の育成のスタンスを方針としながらも、学生の細かい変化を見逃さないよう努め、声掛け等に心がけているところである。しかしながら、学生や保護者側からするとこれまでの小・中・高の学校と同様に職員にもっと踏み込んで欲しいという期待があると思われる。学生に自ら行動する主体性と社会の厳しい現実への対応力を身に付けさせる上からも、学生の様子を見守りながら、指導と支援のバランスをとっていく必要がある。

(6) 教育環境

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・職場で即戦力として働けるように、施設環境を用意し、企業等で使用されているものと同等の製品を整備するように努めている。インターネットの環境も整備をしている。十分か	A
・校内での学習だけでなく、春には、研修旅行を、秋には、遠歩などの校外研修を実施している。また、隔年で、海外研修を行っている。そうした取組みは十分か	A
・消防設備を整備するとともに、業者による点検や、消防署への報告を行い、防消火避難訓練や地震への対応訓練等を行っている。このような防災への対応については十分か	A

①自己評価

教育環境の項目では、施設設備について、学生・保護者の評価が高くなっている。他校の状況との比較理解が進んだことが考えられる。また、校外消防設備及び管理体制については、熊本地震の経験もあり、教室内にヘルメットの装備や、棚の転倒防止のフック設置を行うとともに、地震への対応訓練も実施した。

授業以外の取り組みでは、本年度は、金沢を中心とした国内研修を実施し、地域の歴史や文化に触れ、実施後のレポートにおいても高い満足が窺えるなど、高い評価が得られた。

(7) 学生の受入募集

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・学生の募集について、学校外で行う高校生を対象とした各種ガイダンス、高校でのガイダンス、高校訪問、夏休み等に行うオープンキャンパスや説明会による募集活動を行っている。高校生が理解しやすいよう丁寧な説明に心がけている。適正だと思うか	A
・学生募集活動において、教育成果として、就職状況や検定試験の合格状況等を、ホームページやパンフレット等で紹介し、対面する場合は、具体的に学生に身につく知識や技術について説明している。十分に伝えられているか	A
・学納金については、毎年度、必要経費を積算し見直している。妥当な金額になっているか	A

①自己評価

学生の募集活動の適正さと教育活動の成果について、年々評価が高くなっている。このことは、学生が高校生の時に、本校が募集活動で行ってきた丁寧な説明や、教育の成果についてのホームページやパンフレット、口頭での説明が適切であると評価できるのではないだろうか。

また、学納金については、昨年B評価だったがA評価と高くなった。本校では、教科書採用及び使用教材等についてその必要性和金額の妥当性についての毎年度検討会議をおこなっており、教育効果を上げるために必要不可欠なものに絞っている。今後も学納金については、保護者や学生に対して、細かく丁寧に説明を行うよう努める。

(8) 財務

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	A
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
・財務について会計監査が適正に行われているか	A
・平成26年度より、財務情報について、ホームページで公開している。十分か	A

①自己評価

本校は、完全な自己資本で運営できている。この数年、入学する学生の数が減少しており、単年度的には厳しい財務状況だが、負債もなく財務基盤は安定している。学校の経営基盤の強化を図るため、中期経営戦略についてプロジェクトを組織し、学校の特色化の推進や広報活動の強化、学校の知名度をあげるための取り組みや、オープンカレッジを充実させる取り組みを行い成果をあげつつある。本年度は、熊本市のクリエイティブ人材育成事業の企画・運営を受託するなど新たな展開への足掛かりをつかむこともできた。

(9) 法令等の遵守

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・本校は、国が定める専修学校設置基準等の施設設備、教員数、学科、授業時間等の基準を守り、適正な運営を行っているが、十分か	A
・学校では、学生の氏名、性別、住所、電話番号、成績等の個人情報の扱いについて、慎重に取り扱っているが、十分か	A
・平成26年度から、学校評価を実施し、その結果を踏まえて、学校の改善に取り組んできた。改善への取り組みは十分に行われているか	A
・平成26年度から、学校評価を本格的に実施し、その結果をホームページで公開をしている。公開の状況は、十分か	A

①自己評価

法令等の遵守の項目については、全体的に評価が高い。個人情報等の取扱いについては、学生の住所や電話番号、成績及び記録等は鍵のかかるロッカーで管理し、インターンシップ等で使用する学生側の氏名等についても、企業と協定書を交わし、管理に最善を尽くしている。学校評価を踏まえての改善の取り組みと公開の状況について、共に学生の評価が高くなっており、学校の取り組みについての理解が進んだものと思われる。この状況に甘んじることなく、今後も、評価を真摯に受けとめ、改善策を検討し、継続的に改善を図っていかねばならない。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・本校の学生の教育活動のためだけでなく、一般の方を対象としたオープンカレッジを実施したり、検定の試験会場として会場の提供を行ったりしているが、そうした社会貢献・地域貢献は、十分か	A
・学生たちが社会に対して目を向け、社会や地域における自己の役割を認識し、活動できる人材となるように呼びかけて、学生主体でのボランティア活動等を行っている。こうした取組みは十分か	A
・地域や公的機関等からの協力依頼や委託について積極的に協力できているか	A

①自己評価

学校の施設設備については、これまでも地域における検定の試験会場に提供したり、一般の方を対象としたオープンカレッジを開催したりと地域や社会への貢献に取り組んできたが、本年度から、さらに教室やホールを一般に対して貸会場として、利用できるようにした。また、オープンカレッジについて、昼の部を開設し、充実を図っている。学生たちの社会貢献活動については、熊本地震を踏まえ、「ひろがるわ」をテーマに掲げ、自分たちが持っている力で社会貢献しようと、ブライダル科は被災し結婚式を挙げられなかった方たち10組を対象に行われたシビルウエディングのサポートを、プロフェッショナルデザイン科は、本年度から熊本市が主体となり開催することになった「まちなかコレクション」に協力しファッションショーを行い、ファッション流通ビジネス科は、同イベントの中で、アパレル企業に呼びかけ商品の提供を受けチャリティーフリーマーケットを開催し、その売り上げを熊本市に熊本地震の義援金として寄付するなどに取り組んだ。そのことで、学生は、達成感を感じることができ「社会貢献」への意識も強化された。

3. 総合的な自己評価

今回、職員、学生、保護者、企業関係の講師、企業へのアンケートを実施し、そのデータを踏まえて、自己評価を行った。昨年に続きアンケートに学校の取り組み状況の資料を付記したことで、学校の取り組みへの理解が進んだ。また、全体的に評価が上がった項目が多く、ほとんどの項目についてA評価となった。

本校は、全学科が文部科学省より職業実践専門課程の認定を受けており、業界及び企業と連携し、業界のニーズに即した教育課程を編成し、高度な実践的な授業や演習、実習を実施している。また、各種検定の合格率や就職の内定率が高く、学生や保護者の要望に応えるとともに業界を担う人材を育成できていると言えよう。

また、本年度の特異な状況として、これまで経験したことのない地震を経験し、様々な面でその影響を受けた。特に、全ての人と同じ恐怖を共有したことで仲間意識が生まれ、様々な取り組みについて協力的で寛容な空気が生じているように感じられる。社会貢献活動についてもその影響は大きかった。こうした空気を、絶好の教育の機会として今後も大いにプラスに活用していくことが望まれる。

今後の課題としては、学生の相談体制の整備、保護者との連携強化、学生の社会貢献活動の充実、学生の受入募集の拡充等がある。また、教育課程や教育内容については、高い評価の状況にあるが、その評価に甘んじることなく、常に、企業や業界の動向を把握し、教育課程、教育内容の見直しを図りながら、即戦力となる人材の育成に努めなければならないと考える。

今後、学校関係者評価委員会に於いて、客観的な意見をいただき、それを踏まえて、一層業界や企業と連携を深め、業界が必要とする人材の育成を図るとともに、学生が充実した生活を送れる学校になるよう改善に努めていく。